

平成28年度 伊井小学校 学校評価書(総合)

No.1

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数 (%)	H28 前期 (%)	H28 後期 (%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
学力 向上 の 推 進	1.家庭学習の 習慣化	家庭学習の時間の目安(学年×10分)を設定し、家庭学習の手引きを活用し、家庭学習のあり方を工夫する。	家庭での学習や読書の指導を継続的に行った。	教職員	90	100	100	11月及び2月に学力向上週間を設定し、市の確認テストや校内学テストに向けて、学年×10分+10分の家庭学習時間を目標に取り組ませた。結果的に、頑張る子はさらに学習時間が増えたが、やらない子はあまり変化がなかった。(2極化) ただ、頑張りカードから学習時間や学習内容が分かり、保護者からは効果的だという声が聞かれた。	今年度ははじめた学力向上週間を4月の全国学調、市学力テスト前、12月のSASAと市確認テスト前、そして2月の校内学力テスト(まとめ)の前に設定し、家庭学習の定着をさらに図っていく。また、家庭学習の内容について教師がしっかり工夫をした課題を提供するとともに自主学習のやり方についてもしっかりと継続した指導をしていく。	○小学校でこれだけいろいろと取り組まれているだけでも感謝している。今後小学校へ通う園児を預かるものとしても、しっかり園児の育成に力を注いでいきたい。 ○家庭での学習時間の習慣化はとても大切なことである。小学校の高学年でしっかり机に向かって学習する習慣を身に付けないと、中学校に入るととても苦労する。ただ、中学校では家庭での学習課題も多いので、自然と家庭学習の量は増えていくと思われるので、小学校の間、あまり家庭学習の時間が取れていない児童に対して、それほど心配しなくてもよいのではないかと。
			家庭での設定した学習時間(読書を含む)を達成できた。(週4日以上)	児童	80	△74	△70			
			子ども達は設定時間一杯家庭学習(読書を含む)に取り組んでいた。	保護者	80	△63	△75			
	2.授業力の向上	研究主題を意識した研究を行い、分かる授業・魅力ある授業の創造に努める。	児童の興味関心を高められるよう、魅力ある授業づくりを実践した。	教職員	90	100	100	児童の学力分析から、活用力の向上を一番の課題として、「学びを生かし、考え、表現する児童の育成」～主体的・協働的な、学びを通して～と研究主題とした。その中で教師は3つの柱①好奇心を高める②活用力を育てる③学び合う活動を充実を視点として挙げ、授業改善に取り組んだ。授業の導入の工夫や話し合う場の設定など、教師の熱心な取組の結果、児童の意欲面での評価に、その成果が大きく表れた。また、市の確認テストやSASA2016の結果を分析すると、好結果であったが、発展問題にまだ課題はみられる。	研究主題と学力向上のための3本の柱を意識した授業改善、および教師の研究は、しっかりと児童の学力向上に繋がり、児童の意欲向上や保護者の学校に対する信頼となって表れた。次年度はこれらの研究主題をさらに意識を強め、継続的な取組を行っていく。そして児童が発展的な学習に対しても意欲をもって取組、苦手意識を克服できるように授業改善を行う。	○書くことを好きになるという項目は無理があるかもしれない。親が子どもに「書くことは好きか」と聞けばほとんど「嫌い」と返ってくるのが普通だと思うのでその評価指数は、まずあがらないのではないかと。書くことが好きにならなくても、書くことについて抵抗がなくなっていけるような手立てと習慣化を評価する形でよいのではないかと。 ○書いた内容について、先生からちょっとした褒めの言葉を言われたり記入されると大きな励みになり、書くことに対して抵抗がなくなっていくと思う。 ○体験学習を重要視していただき、感動する体験をさせてほしい。感動したり心が動かされたりするような体験をする、しっかりと感想文は書けると思う。昔から農業体験の感想文をいただいているが、今も昔もとてもよく書けていて、書くことについて劣ってきているとは感じない。
			日々の学習活動を通して、興味関心を持って取り組めた。(低学年)	児童(低)	80	90	93			
			日々の学習活動を通して、興味関心を持って取り組めた。(高学年)	児童(高)		86	98			
			日々の授業が分かった。	児童	80	91	95			
			子ども達は授業が分かっていた。	保護者	80	89	90			
	3.活用力の向上	既習の学習を積極的に取り入れ、活用力を高める。	既習内容を振り返り、授業の中で活用力を高めるような工夫を行う。	教職員	90	100	100	授業の中で、既習事項を振り返る場面を常に意識して授業を行った。県の提供する難しいチャレンジ問題に取り組ませる学年もあれば、既習学習から児童がクイズを作って解くなど、それぞれの学年に合わせた工夫が見られた。	次年度に向けても、活用力アップを目指し、既習事項を振り返る場面を取り入れる。また、通常の授業以外の朝学習の時間を大切にしていきたい。	○書いた内容について、先生からちょっとした褒めの言葉を言われたり記入されると大きな励みになり、書くことに対して抵抗がなくなっていくと思う。 ○体験学習を重要視していただき、感動する体験をさせてほしい。感動したり心が動かされたりするような体験をする、しっかりと感想文は書けると思う。昔から農業体験の感想文をいただいているが、今も昔もとてもよく書けていて、書くことについて劣ってきているとは感じない。
	4.話し合う力の向上	4.授業等で、話し合う場面を積極的に取り入れ、話し合う力を高める。	授業や生活場面で話し合う力を高める指導を積極的に取り入れた。	教職員	90	100	100	文科省が提唱する「アクティブラーニング」の取組として、ペアやグループで討論する授業を積極的に取り組んだ。高学年になると、グループで考えを伝えあったり比べたり、さらに繰り返し合う姿が見られ、かなりの成果が見られた。	次年度においても話し合う場面を積極的に取り入れ、児童の各学年の発達段階に合わせて、話し合いから討論、繰り返しにまで高められるような表現力の向上を目指す。	○今の子どもには周りにゲーム機が氾濫し、ゲーム機の誘惑に負けず読書に時間を持たせるのはなかなか難しいと思う。 ○教科書以外の本となっているようだが、教科書を何度も読ませてもいいのではないだろうか。子どものころ、教科書を何度も読んだことが今も記憶に残っている。 ○本の紹介で、これまで読んだ本の中でおもしろかったものの簡単なあらすじをどんどん紹介するコーナーを作ってみてはどうか。 友達どうして刺激を与えながら意見を交換することにより、図書室に足を運ぶようになっていくのではないだろうか。 ○担任の先生から読み聞かせをしていただいたり、面白そうな本の紹介を多くしていただく本を読もうとする児童が増えていくのではないだろうか。 ○文字ばかりの本でなくても、絵本でもいい本がいっぱいあるので絵本も読むように言うてくださるとありがたい。
			友達同士で積極的に話し合う活動ができた。	児童	80	88	97			
	5.読解力の向上	読んだり・書いたりする力を高める取組を積極的に行う。	朝学習や学習時間に読んだり、(考えを)書いたりする活動を多く行った	教職員	90	100	100	「読むこと」は好きな児童は多いが、「書くこと」は好きになれないようである。同じ項目として評価するのは無理がある。ただ、学力テストの結果から、国語の観点別「書くこと」の正答率は他の観点と比べ低く、課題をもって取り組む必要がある。	評価の項目について見直しをする。読解力向上のための「読むこと」と「書くこと」の評価を別にとらえ、「書くこと」に対する抵抗感をなくすための手立てを一番に考え、毎日の日記の記入や行事の後には、高学年であれば単なる作文ではなく条件やキーワードを与えた条件作文を書けるような指導を行う。	○教科書以外の本となっているようだが、教科書を何度も読ませてもいいのではないだろうか。子どものころ、教科書を何度も読んだことが今も記憶に残っている。 ○本の紹介で、これまで読んだ本の中でおもしろかったものの簡単なあらすじをどんどん紹介するコーナーを作ってみてはどうか。 友達どうして刺激を与えながら意見を交換することにより、図書室に足を運ぶようになっていくのではないだろうか。 ○担任の先生から読み聞かせをしていただいたり、面白そうな本の紹介を多くしていただく本を読もうとする児童が増えていくのではないだろうか。 ○文字ばかりの本でなくても、絵本でもいい本がいっぱいあるので絵本も読むように言うてくださるとありがたい。
			朝学習や学習時間に読んだり、(考えを)書いたりする活動が好きである。	児童	80	△77	85			
			子ども達は、家庭で、文章を読んだり書いたりすることが好きになってきた。	保護者	80	△53	△50			
	6.読書活動の充実	読書に親しむための、週5日読書の推進(教科書は除く)	読書に親しむための指導を積極的に行うことができた。	教職員	90	100	100	学校では朝学習をはじめ、休み時間や授業の一部を読書に充てた取組を十分行っている。特に読書月間では、読書を積極的に勧めることができた。ただ、月によっては学校行事に向けてすることが多く、十分取り組めない日もある。週5日という設定は無理があるのかもしれない。家庭に目を向けると、しっかりと親子読書をしてくださっている家庭もあるが、読書推進の評価は厳しく、本を読むことを勧めたり、一緒に読書活動をしたりするのはなかなか難しいようである。	読書に親しむための週5日読書の継続については見直しをする。また、教科書の説明文や物語文、誌や俳句、短歌なども読書の一環としてどんどん読ませたい。次年度は担任の本の紹介や読み聞かせなど、新しい手立てを行い読書推進を図る。さらに家庭でも親子読書に向かうような手立てや必読書を立てて、家庭でも働きかけをもらうような手立てを行う。	○教科書以外の本となっているようだが、教科書を何度も読ませてもいいのではないだろうか。子どものころ、教科書を何度も読んだことが今も記憶に残っている。 ○本の紹介で、これまで読んだ本の中でおもしろかったものの簡単なあらすじをどんどん紹介するコーナーを作ってみてはどうか。 友達どうして刺激を与えながら意見を交換することにより、図書室に足を運ぶようになっていくのではないだろうか。 ○担任の先生から読み聞かせをしていただいたり、面白そうな本の紹介を多くしていただく本を読もうとする児童が増えていくのではないだろうか。 ○文字ばかりの本でなくても、絵本でもいい本がいっぱいあるので絵本も読むように言うてくださるとありがたい。
			読書に親しむため、週5日読書に継続的に取り組んだ。	児童	80	82	△77			
			家庭で読書に親しむために、読書について話し合うなど働きかけを行った	保護者	80	△56	△50			
			子ども達は、家庭において読書活動が好きになってきている。	保護者	80	△62	△57			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数(%)	H28 前期 結果	H28 後期 結果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価	
思いやり活動の推進	7.係活動やお手伝いの推進	家庭や学校において係活動やお手伝いに取り組もうとする子の育成を進める。	進んで仕事やお手伝いをする子を育てるための呼びかけを積極的に行った。	教職員	90	100	100	お手伝いカードを活用しながら、1年間取り組むお手伝いを設定させ児童にお手伝いすることの意識付けを行ってきた。ただ、カードをもらった時だけのお手伝いになりがちなので、1年間取り組むお手伝いが何なのかの意識付けをもっとしっかり図る必要がある。	お手伝いカードは継続して実施していく。自分の1年間のお手伝いを家庭で意識させるために自分の仕事を掲示用に家庭に目立つ場所に掲示させ取組みを意識させる。	○学校での係活動はどの児童もしっかり責任をもって活動しているようである。しかし家庭でのお手伝いは、親から言われてするといった子が多く、自分から進んで行動するというのはなかなか難しいのではないかと。継続的にできるものがあれば一番いいので、1年間取り組めるのをしっかり親子で話し合う機会を持つとよい。 ○家庭で子どもがお手伝いをしたらしっかり認めてやるのが大切である。そのことが次につながっていくと思う。	
			自分の決めた役割については、続けて仕事(係活動・お手伝い)ができた。	児童	80	88	87				
			子ども達は、家庭での役割分担や手伝いを継続してしている。	保護者	70	△55	△57				
	8.言語環境の整備	正しい言葉づかいについての指導を積極的に進める。	正しい言葉遣いについて積極的に指導を行った。	教職員	90	100	90	教師がいつもよい言葉遣いを意識させながら、児童にも注意を促してきた。児童は落ち着いて生活しているが、ちょっとした競争や競技の場面で相手に対してきつい言葉を発してしまう児童も数名いるので根気よく取り組む必要がある。	正しい言葉遣いを心がけるように、継続してその都度その都度指導していく。また、道徳の時間などに礼儀や思いやりと関連づけて考えられる取組みをしていく。		
			いつも正しい言葉遣いができた。	児童	90	92	△87				
			子どもに正しい言葉遣いの声掛けをした。	保護者	80	85	87				
		あいさつの習慣化の推進を進める。	児童に対して積極的に挨拶指導を継続した。	教職員	90	100	100	校長先生はじめ多くの先生方が朝校門や児童玄関に出て児童にあいさつを呼び掛け、児童もそれにこたえるように元気なあいさつができるようになってきてはいるが数値は目標に達していない。生活体育委員会を中心に、毎朝あいさつ運動に取り組み、校内放送であいさつが上手だった人を伝えているがマンネリになっている部分も感じられる。特に本校にお客さんが来た時などの対応が不十分であり、教職員が見本を示しながらさらに根気強く取り組む必要がある。	4月にあいさつの仕方やルール作りを行い、人に会ったらあいさつできる子を目指していく。また、あいさつカードなどを使って、あいさつの意欲付けを図ったり、集会活動を通して、お客さんに対する接し方を学習したりしながら、根気強く取り組んでいく。		
			「おはようございます」「ありがとう」等のあいさつを進めた。	児童	90	△82	△85				
			子ども達は進んで「おはようございます」「ありがとう」などのあいさつをしていて、保護者自身が「おはようございます」「ありがとう」などのあいさつをしていて、	保護者	80	△79	△78				
	9.教育相談の充実	いじめ・不登校の早期発見、児童理解について積極的に取り組む。	いじめや不登校等の早期発見のために、児童理解に積極的に努めた。	教職員	100	100	100	いじめに対するアンケートや学校生活に関するアンケートを年3回実施し、児童との相談タイムを設けて一人ひとりと向き合う時間を多くとってきた。保護者に対してもいじめに関するアンケートを実施して、児童の変容に気付くきっかけ作りを行ってきた。また、職員会議後には児童理解の時間を設けて共通理解と対策について協議してきた。児童が安心して楽しく学校に登校できるよう今後も気を配りながら進めていく。	普段から注意深く現状を捉え、今後も継続して教育相談に取り組んでいく。校内での共通理解を図り、相談体制を強化していく。	○あいさつについてはこの学校の土地がらか、常に言われている。あいさつを元気にしている子にはしていると思うが、しない子は村の中でも全くない。あいさつは、まず大人が根気強く声掛けし、それを見せながら指導していくしかないと思う。 ○現在、こども園では朝のあいさつを非常に重要視しており、あいさつ＝視診ととらえている。朝のあいさつから園児の健康状態や心の様子をさぐるように心掛けている。あいさつはとても大切なもので、小学校においてもぜひ習慣化の推進をお願いしたい。	
			日々の学校生活を楽しく過ごした。	児童	90	△89	95				
			子どもとの会話などを通して、子どもの心を理解しようと努めた。	保護者	90	100	97				
	10.委員会活動の積極的な取組	児童の創意工夫を生かした委員会活動の積極的な取組を進める。	委員会活動を子どもの創意工夫を生かした活動にすることができた。	教職員	90	△86	100	委員会では、児童の考えを引き出ししながら「小学校生活がよりよくなるには何が必要か」という考えを念頭に置きながら児童主体の活動に取り組ませてきた。月2回程度の活動であるが、当番活動なども主体的に行っている。ただ、声掛けが必要な児童もいるので、気を配りながら進めていく。	児童の主体的な活動を尊重しながら、担任や担当が声掛けを行いながら、さらに活発な委員会の取り組みが行われるようにする。		○小学校では、いじめや不登校の早期発見のために、児童理解に積極的に努めてくださり、いじめ等がないと聞いて安心している。現在、中学校では不登校の生徒がかなりいて、小学校のころ普通だった子に生じている。中学校では、先生や親の目の届かないところでいろんな動きがあり、把握できない点も多い。 ○いじめ問題は人によって取り方が違い、いじめている気が全くなくても相手は大きく傷ついたりすることがあり、注意が必要である。ニュースなどを見るとやはり無くならないとても怖い問題である。 ○小学校のうちから仲の良い大切な友達をしっかりと作っておくことが大切だと思う。辛いこと苦しいことがあっても乗り越えられると思う。
			進んでアイデアを出して、委員会活動に取り組むことができた。	児童(高)	90	△86	91				
	11.思いやりの心の育成	思いやりの心を持って友だちや低学年などに親切に行動できる力を育てる。	道徳教育を生かして、相手のことを思いやり、親切にするよう働きかけた。	教職員	90	100	100	清掃活動や、大なわとび活動など縦割り班を活かした活動を多く取り入れながら、6年生のリーダーを中心に、下級生のお世話をしていくという習慣が身に付いている。やさしい声掛けなどが随所に見られている。今後もこのような活動を充実させながらさらに縦割り班を活かした取り組みを検討していきたい。	ふれあい班を活かした活動を今後も継続して取り組んでいく。下級生を上級生が面倒を見ていくという様子がうかがえるので、今後も縦割り班で活動する機会を多く設けながら継続して取り組んでいく。また、道徳や特別活動の中で、思いやりの大切さを考えさせる工夫をしていく。		
			困っている友達に思いやりの心を持って親切にできた。	児童(低)	80	90	93				
			友達や低学年の子に思いやりの心を持って親切にできた。	児童(高)		86	89				

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数(%)	H28 前期 結果	H28 後期 結果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健康 安全 活動 の 推進	12.体力づくり の奨励	体力づくりを 目指した伊井っ 子タイムの記 録向上の取組	業間活動の記録の伸びや達成感 の意識づけを積極的に行った。	教職員	90	100	100	業間マラソンでは、時間走を週2回取り入れたことで、最初、苦手意識を持つ児童もいたが、マラソカードを刷新したことで意欲的に活動する児童が増えた。依然として意欲が低い児童もいるので、意欲的に活動ができるとよい。なわとびカードの刷新も行い、そこらも意欲の喚起につながった。	継続してマラソンや大なわなどの業間活動に取り組みながらも体力向上に努めていく。なわとびカードはその子にとってはレベルが高い時もあるのでビデオなどを見せたり、体育館の鏡を開放したりして継続的に取り組んでいく。	○放課後子どもクラブの児童の様子を見てみると、なわとびをしたり、大なわとびをしたりと自主的に活動する姿がよく見られる。小学校でしっかり意識をもって活動している成果だと思う。
			業間マラソンやなわとびでなど、記録が伸びるように努力した。	児童	90	△88	91			
	13.基本的生活 習慣の指導と 定着	基本的な生活習慣 (就寝時刻)の指導 と定着の取組: 低学年=9:00、 中学年=9:30、 高学年=10:00	決められた就寝時刻を守ることができた。	児童	90	△86	△87	後期は児童、保護者ともに評価は高くなった。冬休み中にも起床時刻と就寝時刻のチェックを行い、睡眠リズムを崩さないようにした。スポ少や習い事があるため、睡眠を確保することが難しい児童もいる。	就寝時刻のチェックを来年度も健康観察時に行い、規則正しい生活を送ることの大切さを呼びかけていきたい。そして、児童の就寝時刻の現状について保護者にも保健だより等を通じて啓発していく。スポ少等の関係者にも睡眠の大切さを理解してもらえるとよい。	○こどもの頑張りに対して、自己肯定感を育ててほしい。学校の先生の声掛けは当然お願いしたいが、家庭でのご両親、おじいちゃんおばあちゃんからの声掛けが、子どものこれからの頑張りにつながっていくものと思われる。
			子ども達は就寝時刻を守り、早寝することができた。	保護者	80	△77	81			
	14.うがい手洗 いの励行	うがいや手洗いを 習慣化するた めの積極的な取 組	業間、給食前、清掃後にうがい・手洗いがしっかりとできた。	児童	90	92	96	インフルエンザの流行前に保健指導で実際に手の汚れを確認し、手洗いの大切さを指導した。児童、保護者ともに評価が上がってきており、うがい・手洗いの励行を意識して取り組むようになってきた。声掛けをせずとも児童が進んでうがい・手洗いをできるようになるとよい。	来年度も風邪やインフルエンザが流行する時期は手洗い・うがいの励行を促し、感染防止に努めていく。保健指導での手洗い指導も効果的であったため、来年度も継続して行っていきたい。保健だより等で保護者へも呼びかけ、家庭でも取り組んでいけるように啓発していく。	○こども園でも体力作りになわとびをがんばっている。あやとびができたとか毎日報告があって楽しい。今後とも保幼小連携を意識して取り組んでいきたい。
			家庭生活において、帰宅後の食事前にうがいや手洗いがしっかりとできた。	保護者	80	△73	82			
	15.安全意識の 高揚	学校生活・家 庭生活での安全 を意識させる 取組を瀬局 的に進める。	生活の安全について指導を進めることができた。	教職員	90	100	100	児童たちが一番走りやすい廊下に、安全を意識させるために障害物を置いて、廊下での走るスピードを減速させることにより、意識づけを行った。これにより、廊下は走ると危険であるということを認識させ、安全に対する意識が高まったように思われる。また、日頃から集団登下校時の様子などを確認し、不備があれば登校班ごとに注意をうながしてきた。まだ、廊下を走る児童もいるが、根気強く続けていきたい。	さらに継続的に取り組んでいく。児童の一番走る廊下に一人一人が折った鶴の折り紙を置き、踏まないように意識させ、廊下は静かに歩くところだということをさらに意識させていく。	○横断歩道がこども園の前にできてとても助かっている。 ○清間神社の前の横断歩道はなぜあんなに下がってしまったのだろうか。 → ずっと前から清間区長さんからの継続打診があったようで、あの4差路交差点近くの横断歩道は非常に危険で場所を変えてほしいという要望があったと聞いている。 → 横断歩道が通学ではかなり遠回りになってしまったが、児童らはきちんと守って横断歩道を渡って通学している。
			安全に気を付けて活動することがよくできた。	児童	90	△88	91			
			家庭生活における安全について、よく声かけができた。	保護者	90	99	96			
	16.清掃指導の 推進	清掃活動の充 実を目指した 取組を進める。	清掃活動に精一杯取り組ませるために積極的に声かけや指導を行った。	教職員	90	100	90	6年生のリーダーシップのもと、時間いっぱい掃除に取り組もうとする様子が各清掃場所で見られた。毎日の振り返り活動やお掃除金メダルの取組により定着してきた。掃除開始前に雑巾を持って黙想をして待つことが徹底できなかったのが反省点である。	清掃時間の集合の合図をもうちょっと早くして、黙想できる時間を十分確保できるようにしていく。	○毎朝、通学と一緒に来て下さる見守り隊の方や通学路に立って安全を見守ってくださっている方には大変感謝している。今後とも継続してお願いしたい。
			毎日、口を閉じて時間いっぱい清掃活動に取り組むことができた。	児童	90	△86	96			

※次ページへ

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数(%)	H28前期結果	H28後期結果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
二学期制を生かした教育	17.きめ細やかな対応	児童生徒と触れ合う時間を増やし、きめ細かな対応を心がける。	二学期制により、児童とのふれあいの時間を増やすよう心がけている。	教職員	90	100	100	全教職員が、日頃からきめ細から対応をしようと、児童への声がけや児童の様子をよく見ようと心掛けている。その思いが児童にも児童にも伝わっており、「氣にかけてもらっている」「自分のことをよく見てくれている」と感じている。	これからも全教職員が、日頃から児童への声がけや児童の様子をよく見ようと心掛けていきたい。	○夏季休業中や冬季休業中も一連の流れをもった継続的な学習の推進という2学期制の意図や学習時間の十分な確保というねらいはよくわかるが、夏休みを短くして、あの暑いさなかに学校が始まるのはあまりメリットがあるとは思えない。また、10月に秋休みがあるが、一般家庭にとってあの時期に子どもが休みなのはちょっと困惑してしまう。 ○小学校の間は、年間に3回ぐらいの評価をし、それを保護者に伝えるというのが望ましいと考えるので、2学期制についてのメリットといわれるとなかなか難しい。 ○現在、1月中旬中に保護者会があるが、すぐに年度末を迎えてしまい時期的に適切だろうか。せめて冬休み前の方がいいと思う。
			先生は学習や生活の中で自分のことをよく見てくれている。	児童	90	93	93			
	18.長期休業の意識改革	夏季、冬季休業を学期の途中として、意識させて取り組む。	休業中にきめ細やかな学習指導を行った。(学習会3日以上)	教職員	90	100	△75	夏休みはどの学年も3日以上の学習会を実施し、苦手な単元の補充や既習学習の復習課題を提示して取り組ませることができたが、冬休みは2日程度にとどまった学年もあった。	休業中の学習会は日数を多くとる意識ではなく、授業の補充的要素と学習に遅れがちな児童の支援的な要素として実施したい。希望制をとると、補充学習を必要としない児童も参加する傾向にあり人数が増えてきめ細かな指導ができないので学習会の参加方法について考える必要がある。次年度は各教室にエアコンが配備されるので、学習に集中できる。	
			夏休みや冬休みは、計画的に課題に取り組むことができた。	児童	90	△82	92	夏休みに比べて冬休みは、計画的に課題に取り組む児童が増えた。ただ保護者との認識のずれがあり、保護者の目標指数9割達成はなかなか難しい。		
			わが子は、夏休みや冬休みの期間、し計画的に課題に取り組んでいた。	保護者	90	△70	△80			
	19.信頼ある教育の実践	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童生徒や保護者に対して丁寧な説明を行う。	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行うことができた。	教職員	80	100	100	2学期制のため、夏休み前の保護者会や1月の保護者会に通知表を渡してはいないが、児童の振り返りカードや学習状況等の資料を用意してできるだけ詳しく児童の様子を伝えようとしてきた。保護者も詳しく知ることができたと答えている。	今後も教職員は、児童の学習状況や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、保護者に対して丁寧な説明を行っていきたい。1月中旬の保護者会の時期を、冬休み前に行ってはどうか。	
			個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。	保護者	80	94	94			
学校間・保小連携の推進	20.学校間の連携、保幼小連携の推進	学年間や学校間の交流活動に対して仲良く、意欲的に交流するように働きかける。	交流活動時に熱心に取り組むように声かけを行った。	教職員	90	△83	100	ふれあい班(縦割り班)活動では、学年の垣根を越えて、仲良く意欲的に活動している姿が多く見られた。また、低学年と子ども園との交流活動も活発に行われ、保幼小連携がよくとられていた。教職員もお互いの授業(保育)を見せ合う交流も行うことができた。	今後ともふれあい班の活動について熱心に取り組む、学年の垣根を越えて、仲良く活動していけるよう働きかける。こども園との交流について、低学年との生活科や行事だけでなく、業間活動と一緒に走るなど交流を深めていきたい。また、教職員もお互いの授業(保育)を見せ合う交流も継続していきたい。	○こども園としては、小学校とたくさん交流する機会を持っていたが、園児にはたくさんの刺激になっており感謝している。今後とも交流をよりよくお願いしたい。また、オープンスクールという行事があるが、こども園の職員も小学校の様子をぜひ、見に行かせてほしい。
			交流活動への参加について、仲良く活動することができた。	児童(低)	90	97	97			
			交流活動への参加について意欲的に活動することができた。	児童(高)		93	96			